

[実践報告]

通信教育における図書館司書課程カリキュラムの問題点と改善案 ——情報サービス演習科目受講生の声にもとづく授業改善に向けて——

仁上幸治

要 約

通信教育の図書館司書課程におけるスクーリング集中授業の担当講師として初めて担当した情報サービス演習B(情報検索演習)の経験と受講生アンケート集計結果にもとづいて、通信教育独特のコース設計に起因する問題点と改善案を提示した。問題点として、(1)履修順序の混乱、(2)過度な集中履修、(3)パソコン力の格差、という3点を指摘した。また司書資格の価値を高め、図書館員の社会的地位の向上をめざす立場から、改善案として、(1)履修順序のモデルケースの提示、(2)演習科目の同期間併行履修の制限、(3)履修条件としてパソコン力の明記、(4)パソコン初級者課外講座クラスの設置、(5)パソコン習熟度別クラス分け、(6)告知の時期と方法の改善、の6点を挙げた。受講生アンケート回答から全記述原文を掲載した。

キーワード：図書館司書、司書課程、通信教育、カリキュラム、スクーリング、授業改善

0. はじめに

教歴15年の中で、通学制の学期授業と集中授業では主な受講者は20歳前後の学生であった。また社会人である図書館員現職者研修の講師経験は200回を超える。授業と研修の両方で、講義形式とPC教室での演習形式の経験を重ねてきた。

この間、授業方法の現代化という課題については、講義・ノートテイク主体の伝統的な授業形態を発表・討論主体の現代的な双方向授業に変えるため、大学の教育用各種システムをフルに活用することに挑戦してきた。その結果、スライドショーと映像教材のプロジェクター投影形式で授業を行い、使用するプリント配付資料の元原稿はPDF版で授業直後に配付し、授業中・授業後のふりかえりアンケートや試験の解答もウェブアンケート形式で行い、連絡・質問はクラスメーリングリストと私信メールで受け付けるなど、授業記録動画の配信以外のコミュニケーションはほぼオンライン上で済ませられるところまで実現した¹⁾。

しかし、今年度(2015年度)の通信教育のスクーリング集中授業の情報検索演習では、今まで経験したことのない難題に直面した。通学制とは違って、社会人学生主体の通信教育独特

のコース設計においては、科目群の履修順序に制約がなく、パソコン教室での演習科目に必須のパソコンの知識・技能が履修条件とされていないのである²⁾。4月入学者が基礎科目を履修し終えないうちに5月と8月のスクーリング授業で、応用科目(通学制課程では通常3年次配当)を手当たり次第に履修しているという実態は、想定を大幅に超えるものであった。臨機応変に授業計画の変更を行って無事終えることができたが、来年度に向けて、司書課程のコース設計上の重大な問題点について記録を残し課程内で共有しておく必要を痛感した。

本稿は、司書資格の価値を高め、図書館員の社会的地位の向上をめざす立場から、受講生による授業評価アンケート³⁾をもとに、通信教育スクーリング授業の現状について問題点と改善案を提示するものである。

1. 授業概要

1.1. 日時・教室

本年度(2015年度)は本学にて情報サービス演習B(情報検索)を2回担当する機会を得た。一度目は春期の土日スクーリングI期で、5月16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)の、土日授業のあと中5日のインターバルを挟んで土日授業という4日間の日程であった。時間は全日9:00~17:00。毎日100分間×4コマ(初日のみ3コマ)。二度目は夏期スクーリングⅢ期1限で、8月18日(火)~23日(日)の連続6日間。時間は午前中のみ8:30~12:50(午後には情報サービス演習A(レファレンスサービス)が開講)。100分間×2.5コマを6日間。春・夏とも合計15コマ1,500分となっている。

教室は8号館222教室、マルチメディア教室(ただしプロジェクターとスクリーンはなく、受講生デスクの間に小型モニターあり)。

本稿では以下、半日授業連続6日間の夏期スクーリングⅢ期1限を中心に報告する。

1.2. 授業概要

シラバスは以下のとおりであった。

1. 授業の概要

情報通信技術が発達した現代の情報サービスを提供できる能力を養うため、情報資源の種類、探し方について理解を深める。また、情報検索の技法と発信型情報サービスについての演習を通して、情報サービスのための実践的な能力を習得する。

2. 授業の到達目標

- 1) 図書館で日常的に活用するOPACやデータベースの基本的な検索技能を習得する。
- 2) 統制語や演算子といった情報検索の基礎知識・理論を理解する。

3. 成績評価方法

・試験60%，授業参加度・授業内課題40%。

4. テキスト・参考文献

原田智子『情報サービス演習』樹村房, 2012 (現代図書館情報学シリーズ7) 2,160円 (税込) 978-488367-207-3。参考文献は適宜紹介する。

5. その他受講者への指示/メッセージ

図書館概論と図書館サービス論の各論として情報サービス論が設置されており，情報サービス演習はそれらの理論科目の理解を前提とした応用科目である。情報サービス演習は (A) のレファレンスサービス演習と (B) の情報検索演習からなり，両科目を履修するには，情報サービス論を履修済みであることが望ましい。

当科目はPC教室での実習が中心となるため，PC操作とインターネット検索の基本スキルが必須である。受講生の知識技能や理解度によって，授業計画は随時，柔軟に変更される。

6. 授業の計画 *付録1参照

1.3. 履修者と成績結果

履修者は22名で，社会人60% (現役図書館員12%，図書館勤務経験者24%)。入学年度別の比率は当年度64%，昨年度28%，一昨年度8%。学歴は大学卒76%，短大卒16%。年齢は30代以上64% (40代以上40%)。履修済科目数ゼロが32%。図書館概論，図書館サービス論，情報サービス論の履修済人数は各5，2，5名。司書志望者88%。パソコンをほぼ毎日利用している人は56%。

成績評価と授業評価の内訳は表1のとおり，出席不足者1名と検索以前のパソコン力不足者1名が不合格，他全員を合格とした。成績評価基準は試験60%，授業参加度・授業内課題40%と試験重視の基準を設けて，試験問題は基礎的なレベルにそろえたにもかかわらず，試験結果の平均点数は期待よりも大幅に低かった。集中授業受講条件の過酷さを考慮して合格ラインを相当に下げざるを得なかった。

表1 成績内訳

成績	S	A	B	C	D	F	履修者合計	合格者	不合格D	出席不足F	履修者合格率
人数	3	5	8	4	1	1	22	20	1	1	91%

1.4. 授業評価

履修者による授業評価の内訳は表2のとおりであった。5点満点で学習成果自己評価は3.95，授業満足度は3.73という数値を春期スクーリングの4.07，4.20と比較すると，講師側が機器操作に慣れ，ゲスト講師による講演を追加するなど工夫を凝らしたにもかかわらず，0.22，0.47

ポイント低下している。日程の無理、自習時間不足の影響が大きかったものと推測される。教科書の内容はほぼ消化できたとはいえ、受講生にとっては非常に厳しい学習環境であったことは間違いない。

表2 授業評価

	1	2	3	4	5	無回答	合計	有効	平均
学習成果自己評価	0	1	5	10	6	0	22	22	3.95
授業満足度	0	2	8	6	6	0	22	22	3.73

授業評価アンケートの記述から項目別に代表的・特徴的なものを抜粋紹介する（全原文は付録2参照）。

学習成果自己評価では、全般に「今まで使用していた検索エンジンの他に、多くの検索サイトを知ることができた」という評価が多く、「初歩段階のスキルを身につけることを通して、情報検索に対するイメージが変わった」「パソコンのスキルは全くないが、検索する速さが少しは速くなった。コピペなどのパソコン機能を使えるようになった」「全く知識がない状態での参加だったため、恥を捨て、わからないことは何度でも聞くことができた。たくさんの課題をこなすことで、自分なりにパソコンに対する苦手意識を克服し、意欲的に身に付けた検索ツールを使って検索しようという気持ちになった」「ユーザー辞書ツールなど、今まで使っていなかったPC操作も知ることが出来ました」など、初級者から意識・技能両面での成長の実感が表明されている。

授業評価では、全般に「授業がわかり易く的確な内容だった」「授業・情報・課題の密度が濃い」「新しい情報を得られたことによる充実感」「情報検索」「効率性」「専門性」意識向上「皆さんで情報共有を積極的に行うことが出来た」など肯定的な評価が多い。初級者にとっては「駆け足だった」「内容は素晴らしいが、ついていけなかった」「多くの生徒が先生の話を理解できていなかった」など評価が分かれた。

授業の内容や運営で良かったこととして、クラス内コミュニケーションの良さを挙げる声が目立つ。「授業の導入にペットの映像を見せて場を和ませたり、メールフォームを使ってクラスを結束させようとする所に、先生のこの授業に対する情熱を感じた」「資料を紙プリントとネット配信の両方でもらえたことはよかった。また、図書館実習や特別講師の講義は非常に刺激的で心に残った」「内容は全て配布資料に簡潔にまとめられており、パソコンの扱いに慣れていない人がいても、何とか時間通りに全てシラバスどおりに終えられたことがよかった」「生徒間の距離が近く、お互いに助け合うことが許可されていたことが非常に良かった」「皆さんで助け合いながら、目標達成に向けて授業後まで含めて積極的に学習に取り組めたことが良かったです。特にメーリングリストでやりとりが出来るのは、非常に便利」「授業毎のふりかえりアンケートや、ML、解答フォームでの課題提出など、自分が今まで受けてきた授業で、

こんなにも先生との距離が近いと感じた授業はありませんでした」「ふりかえりアンケートの結果を次の回からすぐに取り入れてくれたり、メーリングリストの活用を促したりと、生徒と授業を作り、授業が終わった後にも役立つ情報をたくさん頂きました」など。

改善してほしいこととして多くの要望が寄せられた。

第一に、履修順序とパソコンに関する内容が目立った。「教科の順序のモデルケースがあれば良い」「学習を始めたばかりの頃、大学に「どの科目から始めたらいいか?」と問合わせたところ、「お好きなところから……」と言われました」「図書館司書が、情報検索の能力が必要な資格であることを考えても、学ぶ場においてパソコンを所持していないのは自分の甘さだと痛感」「学生が受講を判断するための情報(PCスキルや他科目の履修状況)は、玉川通信のほうに載せてほしい」「先生の求めるレベルに至れるようになるパソコン講習会を別に設けるとかできれば幸い」など。

第二に、科目の増設に関する要望も多い。「4月からの入学だとこの授業までに理論の単位の修得はむずかしいと思う。冬にも演習のスクーリングをいれてほしい」「もう少しスクーリングでも取れる科目を増やして欲しい」など。

講師に伝えたいこととして、感謝とお詫びと激励のメッセージが並んだ。「非常に中身の濃い6日間でした。1か月くらい学校に通っていたような感覚です。今後の情報検索の世界が大きく広がりました」「パソコン漬け、図書館実習有り、と非常に内容の濃い6日間でした。先生のやり方に慣れるまでは大変でしたが、慣れてくると、とても効率のよい授業の進め方」「大変ご迷惑をおかけしました。毎日睡眠時間を削ってパソコンに向き合いましたが、悪戦苦闘するばかりでした。しかし、理解したい、どうにかしたいという気持ちはだれにも劣らなかったと思います」「とにかく実体験ありき!」という授業方針は、ハードですし、運用も難しいと思います。要望もたくさん言ってしまいましたが、この授業方針はたいへん重要なので、後の方のために是非後退しない方向でお願いします」「終了後、トイレであった受講者と、充実感と苦労をわかちあった達成感で、一緒に泣きました。まだまだですけれど、教えていただいたことを使いながら経験を積んでいくことで恩返ししていきます」など。

2. 問題点

春夏の2回の授業経験と受講生アンケートの結果から、通信教育特有の事情が浮き彫りになってきた。授業運営の効率と学習成果保証の観点から、以下に問題点を3点にまとめておく。

第一に、科目履修順序の問題である。現行の履修ルールには履修順序がまったく設定されていないことには驚きを禁じ得ない。4月入学したばかりの新入生が図書館概論も履修し終えていない時点で、通学制では通常3年次配当になっている演習科目をいきなり履修しているのがある。情報サービス演習(AのレファレンスサービスとBの情報検索の2科目)は情報サービス論という概論科目の応用科目であるのに、情報サービス論が履修済である学生はわずか5名

しかいなかった。

どんな学問分野でも、学習するには基本から応用へ、概論から各論へという積み上げの順序というものがある。現状の無謀さは他の学問分野に当てはめて考えればよくわかるはずである。例えば、法律分野であれば、憲法や民法、刑法、訴訟法などを履修する前に模擬裁判実習に臨むようなものである。あるいは医学分野なら、医学概論や外科概論を抜きにしていきなり手術実習でメスを握らせるのと同じである。司書課程で扱う図書館情報学だけが例外ということはいえない。多くの大学の司書課程で履修前提科目を設定している理由はここにある。

受講生側にも、いきなり応用科目を受講しても大丈夫なのかという不安を抱く学生もいる。アンケートの記述の中にも「大学に「どの科目から始めたらいいか?」と問合わせたとこ、 「お好きなおところから……」と言われました」という指摘があった。

結果的に、授業中に例えば、「では検索結果の書誌データをメモして」という指示を出した瞬間に、大半の学生に「ん? ショシデータ???’という困惑の表情が浮かぶのを見ることになる。専門科目の応用科目であるのに、基本的な用語や概念をいちいち平易な日常語に言い換えなくてはならないようでは演習にならない。超初学者に照準を合わせると現職図書館員や概論科目を履修済の意欲的な学生には無駄な待機時間が長くて欲求不満が溜まる退屈な授業になってしまう。情報資源組織論と情報資源組織演習というもうひとつの演習科目でも同様な事態が生じていることが容易に想像できる。

第二に、履修科目の過多という問題である。特に地方から上京して宿泊先から通学している学生はスクーリングの履修科目登録の際に、まとめて取れるだけ取ろうと考えるのも当然である⁴⁾。5月のスクーリングでは土日全日授業の2週で4日間だが、中5日間のインターバルがあるため復習の時間が一応確保できた。しかし8月のスクーリングでは半日授業の連続6日間であるため、翌日までの生活時間の中に復習の時間を確保することはほとんど望めない。宿題は余力のある学生のためのオプションという扱いとせざるをえない。

さらに、6日間の集中授業期間に、午前の情報サービス演習Bと午後の情報サービス演習Aの両方を履修する学生が大半である。午前の1科目の演習だけでも翌日までの自習時間を確保できず消化不良に陥りがちな状況なのに、さらに午後にも演習科目を受講しているということは、授業中の集中力も落ちて当然である。気力と体力の限界への挑戦という様相を呈する。遠距離通学の学生もいるため、帰宅後に2科目分の自習時間を望むほうが無理であろう。他の講義科目を含めて、スクーリング集中授業の実質的自習時間は大学設置基準(1991)における単位認定基準を大幅に下回ることは間違いない⁵⁾。

第三に、パソコンの知識・技能の格差の問題である。情報検索のプロをめざすパソコン教室での演習授業であるから、パソコン力は初級どころか中級程度を前提にしてもおかしくないはずである。履修者アンケートの結果によると、日常的にパソコンを活用している学生は半数程度にすぎない。まさにスマホ時代である。

インターネットによる情報検索に入る前のパソコンの基本操作のレベルで躓いている受講生

が3割程度はいるものと思われる。TA（ティーチングアシスタント）が付かないという条件のもとでは、クラス内の相互扶助の雰囲気づくりを重視し、中上級者による隣席の初級者へのヘルプを奨励するしかない。その結果、クラス内相互扶助が一定に機能している様子は観察できた。しかし、中上級者への過大な期待は酷であろう。

3. 改善案

以上の3点の問題点について、以下に6つの改善策を提案する。

第一に、履修順序のモデルケースを示すことが重要である。一律に履修順序をルール化することが難しいのであれば、履修順序逆転という現状の弊害を多少とも緩和するために、いくつかの方策が考えられる。科目群の学問的な構造を教え、最初に図書館概論、次に図書館サービス論、情報サービス論の後に情報サービス演習を、情報資源組織論の後に情報資源組織演習をという「望ましい履修順序」を示しておくことはできるはずである。諸般の事情でモデルケースのとおり履修できない場合は、学習面の不利を引き受ける覚悟を求めるといいういは可能であろう。

第二に、演習科目の同期間併行履修の制限である。集中授業期間中に半日演習授業を午前・午後連続して履修することには集中力、体力、自習時間確保に相当な無理があることを予め断っておくことである。通学制では年間履修可能単位数に制限を設けている大学はある。この制限ルールの考え方は通信教育のスクーリングにも適用できるはずである。

第三に、パソコンの初級レベルの知識・技能が必須であることを明記することが考えられる。レファレンスサービスの専門的な情報検索科目としてパソコン力は必須の受講条件とするのが本筋である。当然、実力に自信がない学生には厳しい条件づけになるが、科目履修登録の際、できれば入学オリエンテーション時に、パソコン自習用のテキストや教材を示して各自での自習を促しておけばよい。

第四に、パソコン初級者課外講座クラスの設置が実現できれば多数の受講が見込める。集中授業の前に単位認定外の自由参加講座の扱いでパソコン初級者クラスを設けることによって、演習授業を履修する学生のパソコン力のレベルを揃えられる。もちろん、日程や教室の制約があり、講師の人件費がコスト増となる。もしカリキュラムの充実にコストをかけることが許されるのであれば、という条件付きである。

第五に、パソコン習熟度別クラス分けをすることも考えられなくはない。パソコン初級者課外講座が実現できない場合は、授業効率の観点だけで見れば、演習クラスを初級と中級に分割して2クラス編成にすることも可能ではある。特に初級クラスにはTAを付けることが必須である。しかし、2つのクラスで学習内容と成果に差が出ることは避けられない以上、司書資格の質保証の点で望ましい改善策とは言えないであろう。

第六に、告知方法の改善も必要である。掲載媒体として『玉川通信』があるが、モデルケー

スなどの履修上の注意事項を履修科目登録時期に合わせて掲載する必要がある。併せて事務部門の対面・電話の対応においては、「履修順序は自由」というニュアンスにならないよう履修モデルケースの趣旨に合致した対応が望まれる。

他にも、授業の質、学習の質を確保するための方策として、春・秋どちらに入学しても、概論から演習へという順序を守って履修できるよう同一科目を複数のスクーリング期で開講することが理想であろう。TAを配置することも望まれる。もちろんどこまで改善するかは予算、教室、時間などの条件が許せばという経営判断しだいである。せめて、大型スクリーンとプロジェクターの導入だけはぜひご検討をお願いしたい。

4. まとめ—司書の社会的評価の向上をめざして—

昔から「図書館員の専門性を保障するカリキュラムの構築」や「上級司書制度」をめぐる議論は続いているが^{6) 7) 8)}、図書館員の社会的評価は低下の一途をたどって今やコンビニのアルバイトと同程度のものと見なされ、正規職員としての就職口はほとんどない状況にある。専門職の制度設計としてはすでに崩壊したも同然である。そんな中でも全国の大学は毎年1万人を超える司書資格修了者を社会に送り出し続けていて、人材の供給過剰に拍車をかけている⁹⁾。図書館員の社会的地位を上げ、司書資格の価値を上げるには本来、修了者が持つべき知識・技能・姿勢の要求水準を従来以上に厳しく設定し、その水準を超える人材を養成するために最適なカリキュラムを設計し、授業の質的改善に努めなければならないはずである。

その人物の実力の品質保証書としての司書資格証書に、通学制も通信制も区別はない。もしも通信教育のほうが司書資格を簡単に取得できるという実態があるとすれば、実力の裏付けのない証書の乱発は、長期的に見れば、その資格自体の、司書課程の、図書館業界の社会的評価を下げる方向に働くことは間違いない。諸々の経営判断に関わる事情は重々承知しているが、司書課程の設置者である大学が自らの首を絞めていくことにならないことを願うばかりである。

5. おわりに

今年度、初めて通信教育のスクーリング集中授業を担当する機会をいただき、教育現場の実情を再認識することになった。学ぶことに対して前向きな受講生の生の声に虚心に耳を傾ければ、問題点と改善案が浮かんでくる。ひとりひとりの顔を思い起こすと、講師として記録に残すことの責任を痛感しないわけにはいかない。

一昨年、著者初の単著単行書『図書館員のためのPR実践講座—味方づくり戦略入門—』（樹村房、2014.10）¹⁰⁾を刊行することができた。本論文の前提となる図書館、図書館員、司書に関する著者の見解は同書に書いたとおりである。その他、著書、論文、講演の全文・記録は著者ホームページで公開しているので、この場を借りてご参照を乞う¹¹⁾。

授業の設計と運営の技術的な要改善点については別稿を用意するつもりである。

授業の準備、資料配付、機器トラブルへの対応などでは通信教育事務部のスタッフ各位に、昨年開館した新図書館での図書館実習では館員各位にお世話になった。本稿の執筆・掲載に当たっては、通信教育部准教授の松山巖先生にご尽力をいただいた。みなさんに深く感謝を捧げたい。本学の、ひいては全国の、司書課程の授業改善に多少とも貢献できれば望外の喜びである。

注・参考文献

- 1) 授業実践報告として以下の論文を参照（著者ホームページにて公開中）。
 - ・仁上幸治「司書課程の社会的評価の向上を目指す切り札—情報検索演習における「受講生による授業評価」の集計結果報告—」『法政大学教職資格課程年報』（法政大学キャリアデザイン学部紀要別冊）vol. 1, 2003年度, 2004.3.30, pp. 66-76.
 - ・仁上幸治「情報リテラシー底上げ奮戦記—自習時間ほぼゼロ学生のための論文・プレゼン指導—」『帝京大学総合教育センター論集』（2）, 2011.3, pp. 83-105.
 - ・仁上幸治「情報リテラシー教育を担う小中学校教員をいかに養成するか—教職志望学生の徹底改造を目指す司書教諭科目からの提言—」『帝京大学総合教育センター論集』（5）, 2013, 2014.3, pp. 69-93.
 - ・仁上幸治「マルチメディアのフル活用による双方向授業の試み—スライドショー、映像教材、ファイル配布・提出、アンケートの各システムを使い切る—」『帝京大学情報処理センター年報』（13）, 2011.3.31, pp. 77-91.
 - ・仁上幸治「情報メディアは作ってみればわかる—メディアリテラシー指導のプロ教師を育てる授業の工夫—」『帝京大学情報処理センター年報』（16）, 2013, 2014.3.31（7.26刊行）, pp. 95-109.その他、過去の授業報告は以下で公開。
 - ・仁上幸治授業評価報告：<http://sites.google.com/site/nikamik23/class-evaluation>（確認：2016.1.6）
- 2) 玉川大学通信教育コースガイド 司書コース
<http://www.tamagawa.jp/correspondence/education/course.html>（確認：2016.1.6）
「司書は、図書館で働く専門職です。図書や雑誌の収集、整理、保存、貸し出しから情報サービスなど一切を担当します。パソコンによる検索システムが普及しているので、パソコン使用は必須となります」
- 3) 授業評価アンケート（情報サービス演習B）（2015.8）
https://docs.google.com/forms/d/1HjSAV4u0rPqatgTj9_Ir0hfzr33MWWZEGT8Q2VWOKWk/viewform（確認：2016.1.6）
- 4) 玉川大学通信教育のメリット「1～2年で、教員免許状や資格の取得が可能です。」
<http://www.tamagawa.jp/correspondence/about/merit.html>（確認：2016.1.6）
- 5) 文部科学省「大学設置基準の一部を改正する省令の施行等について」
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19910624001/t19910624001.html（確認：2016.1.6）
- 6) 渡辺信一「司書課程カリキュラムの10年—カリキュラム制定時の経緯など（第111回研究例会報告、図書館学教育研究グループ研究例会報告）」『図書館界』58（4）, 2006.11, pp. 242-243.
- 7) 北克一；杉本節子「司書養成科目の構成構造とその関係性の考察：司書課程の経営の視座から」『情報学』4（1）, 2007.
- 8) 山中秀夫「全国図書館大会ハイライト 第7分科会/図書館情報学教育 司書課程における質保証の

あり方を考える」『図書館雑誌』119 (1), 2016.1, p. 20.

9) 蓑田明子「司書養成のもうひとつの側面を考える 毎年1万人が司書資格を取得 その時だけが、何を学ぶのか」『出版ニュース』(2395), 2015.11, pp. 4-10.

10) 仁上幸治『図書館員のためのPR実践講座一味方づくり戦略入門一』樹村房, 2014.10.

11) 略歴, 論文, 講演等の業績は下記ホームページにて公開。

仁上幸治ホームページ：<http://sites.google.com/site/nikamik23/> (確認：2016.1.6)

付録1 授業計画

表3 授業計画表（情報サービス演習B〔情報検索〕 夏期スクーリングⅢ期：2015. 8. 18-23）

日	回	テーマ	内容	配付(プリント+PDF)	動画	ウェブフォーム
第1日						
	1	授業オリエンテーション				
			講師自己紹介		クサガメ（室内放し飼い全力疾走）	
			履修状況・履修順序の確認			
			レファレンスライブラリアンの人物像		スターウォーズ：ジェダイ公文書館	
					恋の正しい方法	
			シラバスの再確認	シラバス		
			授業運営方法			
			PC入門（1）メモ帳の活用			
			履修者アンケート			履修者アンケート
	2	レファレンス・コレクション				
			履修者アンケート結果の分析			
			シラバスの見直し			
			レファレンスライブラリアンの仕事		『新・図書館の達人』第2巻「文献探索法の基礎」（24分）	
			情報検索のステップ	新図書館の達人第3巻「情報検索入門」解説資料1998		
			PC入門（2）検索演習の準備	パソコン入門		
			今日の課題（1）	課題説明		
			メーリングリスト登録・ファイル保存			
			ふりかえりアンケート（1）（2）			ふりかえりアンケート
第2日						
	3	復習	ふりかえりアンケート（1）（2）まとめ			
			メーリングリスト登録結果・運用開始			
			課題答え合せ	演習問題正解		
	4	図書を探す（1）				
			データベース検索		『情報の達人』第2巻「ゼミ発表をしよう！」（各講7分）	
					第2講 情報を探し出す仕組み	
					第3講 データベース検索の手順と手法	
			演習：図書を探す	演習問題		演習回答フォーム
	4	図書を探す（2）				
			演習：図書を探す	演習問題		演習回答フォーム
			雑誌記事を探す（1）			
			今日の課題（2）	課題説明		
			演習：雑誌記事を探す	演習問題		演習回答フォーム
			ふりかえりアンケート（3）（4）			ふりかえりアンケート
第3日						
	5	図書館実習（1）		図書館実習要領		
			図書館ガイダンス			
			雑誌バックナンバー書庫など			
		復習	ふりかえりアンケート（3）（4）まとめ			
			課題答え合せ	演習問題正解		
	6	雑誌記事を探す（2）				
			演習：雑誌記事を探す	演習問題		演習回答フォーム
			新聞記事を探す			
			演習：新聞記事を探す	演習問題		演習回答フォーム

		今日の課題 (3)	課題説明		
		ふりかえりアンケート (5) (6)			ふりかえりアンケート
第4日					
	7	復習 ふりかえりアンケート (5) (6) まとめ			
		課題答え合せ	演習問題正解		
		言葉を探す			
		演習：言葉を探す	演習問題		演習回答フォーム
	8	事柄を探す			
		演習：事柄を探す	演習問題		演習回答フォーム
		統計を探す			
		演習：統計を探す	演習問題		演習回答フォーム
		歴史を探す			
		演習：歴史を探す	演習問題		演習回答フォーム
		今日の課題 (4)	課題説明		
		ふりかえりアンケート (7) (8)			ふりかえりアンケート
第5日					
	9	図書館実習 (2)	図書館実習要領		
		レファレンスツールの紹介			
	10	復習 ふりかえりアンケート (7) (8) まとめ			
		課題答え合せ			
		ゲスト講義：小嶋智美先生 (ヘルスサイエンス専門員, 元愛知淑徳大学図書館職員)			
		地理を探す			
		演習：地理を探す	演習問題		演習回答フォーム
		人物・企業・団体を探す			
		演習：人物を探す	演習問題		演習回答フォーム
		法律・判例・特許を探す			
		演習：法律を探す	演習問題		演習回答フォーム
		今日の課題 (5)	課題説明		
		ふりかえりアンケート (9) (10)			ふりかえりアンケート
第6日					
	11	復習 ふりかえりアンケート (9) (10) まとめ			
		課題答え合せ	演習問題正解		
		試験 配付	試験問題		試験解答フォーム
		要領説明			
		試験			
		提出			
		課題答え合せ	試験正解		
	12	授業総括			
		学習成果			学習成果フォーム
		授業評価			授業評価フォーム
		伝達 成績評価・クレーム			
		最終課題	課題説明		
		メーリングリスト			
		終わりに			
		ふりかえりアンケート (11) (12)			ふりかえりアンケート
		終了挨拶・拍手!	名刺交換		

付録2 授業評価アンケート結果

【1】集計結果表

表4 学習成果の自己評価

設問	1	2	3	4	5	合計	平均
Q1. 自分の成長度を5点満点で評価すると何点ですか	0	1	5	10	6	22	3.95
Q2. この科目のテーマについての知識と技能は全般に向上しましたか	1	1	5	5	10	22	4.00
Q3. 意欲的かつ積極的に出席し授業参加できましたか	1	0	5	7	9	22	4.05
Q4. 授業中に集中して学べましたか	0	3	0	7	12	22	4.27
Q5. 復習の課題レポートに積極的に取り組みましたか	0	3	3	12	4	22	3.77
Q6. 復習の課題レポートに週60分以上をかけることができましたか	0	0	3	2	17	22	4.64
Q7. 級友に困っている人がいたとき自分から積極的に助けましたか？	2	1	1	7	11	22	4.09
Q8. クラス全体の状況を見て授業進行に積極的に協力できましたか？	2	1	5	8	6	22	3.68
Q9. 授業中の討論を盛り上げる努力を積極的にしましたか	2	2	7	4	7	22	3.55
Q10. 発言・発表に積極的に取り組みましたか	3	2	8	3	6	22	3.32
Q11. 自ら主体的に学ぶ意欲が向上しましたか	0	1	0	6	15	22	4.59
Q12. 知識共有の協働意識が向上しましたか	0	0	1	9	12	22	4.50
Q13. 専門職のありかたについての認識が得られましたか	0	0	1	4	17	22	4.73
Q14. 情報リテラシー教育と図書館利用教育の重要性を理解しましたか	0	0	0	6	16	22	4.73
Q15. 新しい知識や技術あるいは理論や考え方を習得できましたか	1	0	3	6	12	22	4.27
Q16. 問題意識や関心が深まりましたか	0	0	0	6	16	22	4.73
Q17. 授業外の自分の学習・研究に役立てましたか	1	0	2	5	14	22	4.41
Q18. 履修前に司書（司書教諭）になりたいと思っていましたか	0	1	5	3	13	22	4.27
Q19. 履修後に司書（司書教諭）になりたいと思うようになりましたか	0	1	5	2	14	22	4.32
Q20. この科目を履修して良かったと思いますか	0	0	3	2	17	22	4.64

表5 授業評価

設問	1	2	3	4	5	合計	平均
Q1. 授業の評価を5点満点で採点すると何点ですか	0	2	8	6	6	22	3.73
Q2. ねらいあるいは学習目標は明確でしたか	1	0	3	3	15	22	4.41
Q3. 教育内容や教材は理解できる内容でしたか	0	1	5	7	9	22	4.09
Q4. シラバスやオリエンテーションで示された内容と一致していましたか	0	2	6	9	5	22	3.77
Q5. シラバスの記述は履修や授業を受ける上で役立ちましたか	2	3	3	10	4	22	3.50
Q6. 教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は分かりやすかったですか	1	1	6	6	8	22	3.86
Q7. 教材（教科書、プリント、スライド、ビデオなど）は理解に役立ちましたか	0	0	2	5	15	22	4.59
Q8. 教員の熱意は十分だと感じましたか	0	1	2	3	16	22	4.55
Q9. 教員の準備は十分だと感じましたか	1	3	1	8	9	22	3.95
Q10. 質問や発言に丁寧に対応していましたか	0	0	7	7	8	22	4.05
Q11. シラバスや授業で示した成績評価の方法は適切かつ十分だと思いましたか	0	2	7	4	9	22	3.91
Q12. 新しい知識や技術、あるいは理論や考え方の習得に役立ちましたか	0	0	3	1	18	22	4.68
Q13. 問題意識や関心が深まるよう配慮していましたか	0	0	4	2	16	22	4.55
Q14. 意欲的かつ積極的に参加するよう促していましたか	0	0	2	7	13	22	4.50

[2] 集計結果グラフ

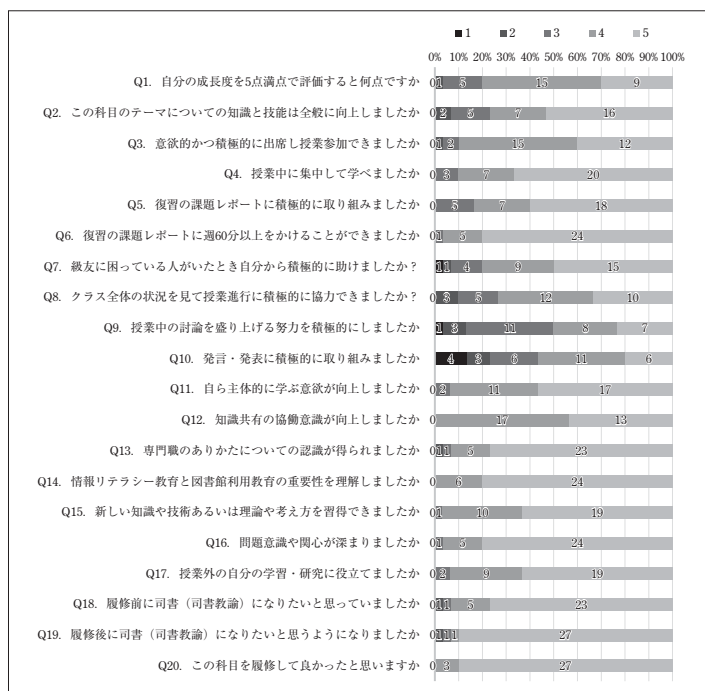


図1 学習成果の自己評価（Q1成長度 平均3.95点）

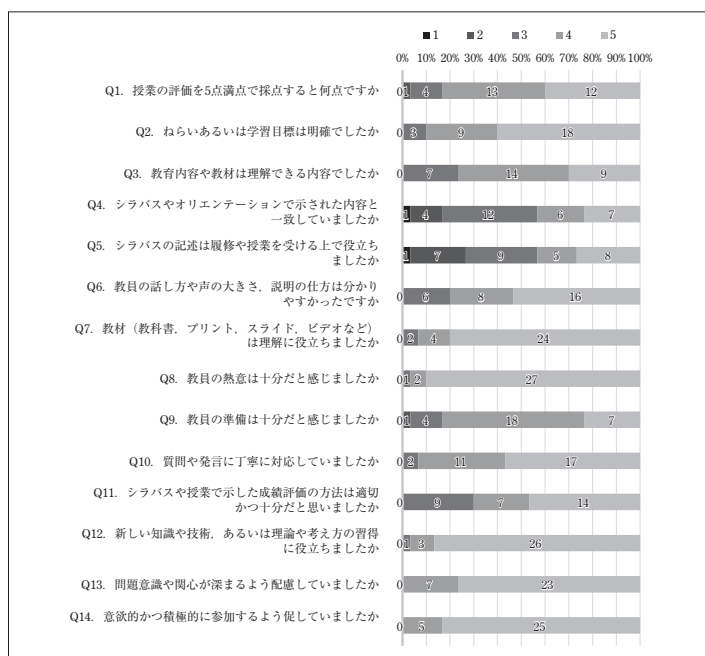


図2 授業評価（Q1総合評価 平均3.73点）

[3] 記述 *ウェブアンケート提出原稿の原文のまま

3-1. 学習成果自己評価 (成長度 平均3.95)

**Q1-2. その理由をひとりで表現すると(20字以内)
5点**

- ・未知の情報探索手法を学び、それを自分の知識として整理できたから。
- ・情報の探し方を、基礎的に理解した。
- ・精神的に健康な状態で受講できた。
- ・検索知識が非常に深まったため。
- ・これまで避けておって来たパソコンに、自分から立ち向かおうとしたから。
- ・色々な分野ごとに役立つサイト情報を得た。

4点

- ・無遅刻無欠席で6日間授業に取り組めた事。
- ・検索はある程度習得できたが積極性に欠けた。
- ・初歩段階クリアなるも、時間がかかりすぎ。
- ・情報源がしっかりしたサイトを覚えた。
- ・情報検索サイトを多数知り、体験できた。
- ・司書という仕事があります好きになった。
- ・今まで使用していた検索エンジンの他に、多くの検索サイトを知ることができた点。
- ・情報検索の知識・技術が身に付いたから。
- ・ネット検索を積極的にできるようになった。
- ・多くの情報検索ツールを知る事ができたので。

3点

- ・可もなく不可もなくと自分では思っている。
- ・パソコンの使い方に慣れた。以前より、情報検索力が向上した。
- ・情報によって、検索すべき手段を学んだ。
- ・自分が何ができないのかは明確になったが新しく何かができるようになったという実感がわからない。
- ・内容はすでに使っているものが多かったため。

2点

- ・パソコンのスキルは全くないが、検索する速さが少しは速くなった。コピペなどのパソコン機能を使えるようになった。

**Q22 この授業を受けて自分が大きく成長した点
5点**

- ・未知の情報探索手法を学び、それを自分の知識として整理できた点。短時間で大量の知識を詰め込んだため、今後の活用に生かすことで、情報探索の際の自らの武器としていきたい。

- ・情報の探し方を、基礎的に理解したことが「大きく成長した点」である。インターネット上の情報は「不確定なものが多い」からこそ、積極的に使い込んで、「情報検索力」を高めること、出版物とあわせた確実な情報を「検知する力」を養うことの重要性を感じました。また、ブックマークや辞書機能を使い「効率性」を高めることも学びました。検索項目ごとにフォルダ分けしたブックマークは、更新しつつ使い込んでゆきたいです。

- ・レファレンスサービスは知識、チームワーク、プロの姿勢をフル活用して効率的で効果的な回答を提供することがわかった。図書館の素晴らしさを再確認した。

- ・この授業を受けて私が大きく成長した点は、検索知識が深まったことと、パソコンスキルの向上と積極性です。帰宅後もパソコン漬けでとにかく大変でしたが、そのおかげで一週間前の私とは大きく変わったので、充実していて、大変ながらも楽しむことが出来ました。非常に良い経験をさせていただいたと思います。仁上先生、有難うございました。

- ・正確な情報を取得する意義と方法を知ることができた。この授業を受講するまでは、自分のできる範囲で誠意をもってレファレンスすればよいと思っていたが、それではこの世の中についていけないことを痛感した。また、短い時間で効果的効率的な情報サービスがどれだけ求められるのかも認識した。できるようになるには、相当な努力が必要だが、その努力をしよう意識できたことは大きな成果である。

- ・改めて、他人を理解することの難しさと、大切さを学びました。司書としても、利用者の要求を理解する必要があります。利用者が理解できるように、情報を提供する必要があります。図書館員同士が協力するためにも、お互い理解をしてあゆみよる姿勢が大切です。きちんと相手の言葉と行動の意味を理解しようと思います。

4点

- ・パソコンスキル、情報検索の知識や能力、分野毎の情報サイトの使い分け、情報サイトの利用方法、スクリーニングを通してコミュニケーション

ン能力の向上, 積極的に(できる範囲での)課題への取り組み時間の使い方, 自己の体調管理の重要性。

- ・まずは, PCをより効率的に使えるようになったことで, 授業内だけでなくこの先レポート作成をする際にも役立つ技術を, そして, 検索についても, 様々なデータベースの存在を利用する検索方法を身につけられたと思う。実際にビデオ教材やPCや図書館での検索を体験し, 小嶋先生のお話を伺えたことで, 司書の仕事について改めて考えることができた。
- ・初歩段階のスキルを身につけることを通して, 情報検索に対するイメージが変わったことだと思う。身元の確かな検索ツールは, その情報の集め方や提供目的に非常にはっきりした意図をもっており, そうしたツールをたどって検索すると, 調べようとしていたことがどのような脈絡の中にあるのかといった事情が, 網目のように浮かび上がってくる。これは, 元々探していた端的な回答よりも, むしろ重要な内容であることも多い。情報検索は, 奥の深い, クリエイティブな作業なのだ。
- ・以前は検索サイトでキーワード検索するだけでしたが, 情報検索のツールを知って, インターネットの利用の仕方や考え方が以前と変わりました。
- ・まずは基本的なパソコンスキルが向上できたこと。そして, 今まで知らなかったツールをたくさん体験し, 分野や用途によって検索サイトを使い分けることを知ることができた。何より, 情報検索の重要性を実感することができた。
- ・司書という職業に対する見方が変わった。今までは「本を管理し貸し出す」事が一番の仕事のように感じていたが, 「情報を提供する」ことが司書の仕事であり, 司書自身が「情報検索のプロである」という気構えで仕事に臨まなければ, 利用者の司書に対する意識も変わらないと考えるようになったこと。
- ・情報検索力が向上した点。コミュニケーション力の重要性を再認識できた点。
- ・この授業を受けて自分が大きく成長した点として, まず情報検索の知識や技術が身に付いたことが挙げられます。紙媒体からインターネットの検索ツールが非常に沢山あるということ, 検索ツールの的確な使い方が可能になったと感じています。また授業内において, 生徒同士で助

け合うことで, コミュニケーション能力の向上にもつなげることが出来たと思います。

- ・全く知識がない状態での参加だったため, 恥を捨て, わからないことは何度でも聞くことができた。たくさんの課題をこなすことで, 自分なりにパソコンに対する苦手意識を克服し, 意欲的に身につけた検索ツールを使って検索しようという気持ちになった。
- ・まだ使いこなせるレベルには到底至っていませんが, 多くのデータベース, 検索サイト, 図書館の紙媒体の参考図書など, 情報検索方法の種類が格段に広がりました。また, ユーザー辞書ツールなど, 今まで使っていなかったPC操作も知ることが出来ました。仁上先生や小嶋先生の貴重なお話を伺い, 専門職としての司書はどうあるべきかという肝心なことを, 自分の中で改めて掘り下げて考えられたことも大きな意味があったと思います。

3点

- ・この授業で自分が大きく成長した点は, パソコンの技術的な面での成長である。以前の学習方法はインターネットの情報を信頼することができず, 図書館で実際に本を調べるだけで, 司書過程の勉強でもこの方法が一番正しいと思い込んでいた節もあるため, 学習が滞っていたが, 今はインターネットは使い方次第では信頼のある情報をより手軽に効率的に集めることができることがわかったため, 学習の効率が上がった。
- ・情報検索力とは, 司書に必要なスキルの一つであり, 専門職として生き残るための武器(スキル)の一つであると考え。そのスキルを, 演習により完全ではないが身につけることができたこと。また, 正しいネットでの情報へのアクセス方法と, レファレンスでは, コビペの方が, 正確な情報として成立することを学び, 今後の仕事に利用しようという意欲がさらに増したことが大きく成長した点です。
- ・この授業を受けて, 自分が大きく成長した点は, 情報検索力です。以前は, 得た情報をそのまま, できるだけ多く使用して検索しました。そのため, 必要とする情報にたどりつくまで, とても時間がかかりました。授業を受けることで, より少ない言葉や文字数で検索することができ, 以前より早く情報が検索できるようになりました。
- ・情報検索を行うにあたって, 自分が何ができて

いないのが明確になった。具体的には、紙の参考資料の種類や使い方の知識が不足していること、インターネット上のデータベース（CiNiiやNDL-OPAC）は利用していても便利な利用方法を知らなかったことが明確になった。授業終了後に数名で図書館に赴き、インターネットが利用できるパソコンでGoogleのアカウントの作成方法のデモンストレーションを行った。自分にとっては難しくないインターネット上の操作であっても知らない人がいて、自分のような者の説明でも役にたつということが分かった。当たり前のように行っていることでも人に説明できるようにしておくことが重要だとわ

かった。反対に、教えてもらうこともあり、謙虚に話を聞く姿勢の重要性がわかった。

- ・デジタル機器利用に慣れている人が発する情報を、慣れていない人へ変換して伝えようとする気持ちが以前に比べて格段に増しました。デジタルデバインドについて改めて考える意欲が湧いています。

2点

- ・図書館司書にとって情報検索の重要性を強く感じる授業となった。本だけではなく、ネットを使って検索することで、利用者の疑問、質問などの手助けができると感じた。パソコンの機能を少し覚え、使うようになった。

3-2. 授業評価（Q1総合評価 平均3.73点）

Q2. その理由をひと言で表現すると（20字以内）

5点

- ・新しい情報を得られたことによる充実感。
- ・非常に勉強になりました。
- ・「情報検索」「効率性」「専門性」意識向上。
- ・皆さんで情報共有を積極的に行うことが出来た。
- ・授業がわかり易く的確な内容だった。
- ・授業・情報・課題の密度が濃いので

4点

- ・興味深く充実した内容だが駆け足だった。
- ・ポイントが抑えられた、わかりやすい授業。
- ・たいへん実践的な内容、かつ身につく。
- ・自分の受講科目の配分ミス。ハードすぎました。（2期3期で4科目受講）
- ・実践力のある演習が繰り返しできる。
- ・実践的な授業であった所。

3点

- ・短期間のなかで、内容が濃い。
- ・事前連絡がなく、全員が授業を受けるに十分な環境を整えられなかったから。
- ・連絡不足、準備不足があったように感じる。
- ・6日間しかなく、講師のやり方に慣れる前に終了してしまい、指示の理解が難しかった。
- ・決められた時間内に予定した内容を終わらせたのは分かるが、早口の説明では、情報を正確に得られない。
- ・内容は素晴らしいが、ついていけなかった。
- ・音声等、教室準備がよくなかった。
- ・多くの生徒が先生の話を理解できていなかった。

2点

- ・情報検索のサイトや検索の仕方は分かったが、

スピードや検索が上手いかず、まだまだできていない。

- ・操作効率追及は、司書知識習得の後で良いと思います。

Q15. 授業の内容や運営でよかったこと

5点

- ・パソコン上達方法の指導、情報検索方法の指導、各種情報サイトの紹介。パソコンを使用した実務的な生きた授業（情報検索力の向上の指導）。今後の学習に大いに活かせる授業。決められた席順によるグループ授業で6日間と通して教室に一体感が得られた。助け合って6日間を過ごせた。
- ・情報検索に情報源の確かなツールを知ることが出来たことと、パソコンに対する恐怖心が少なくなりました。
- ・検索項目ごとに、「サイト」「図書館の使い方」を紹介していただき、利用してみるプロセスを踏んだことで理解が深まった。特定のモニターの情報を共有しながら、討論を行うことが出来たこと。通常の通信教育では単独で勉強しているからこそ、周囲のメンバーと実作業を協力して行うことが出来たことが、よかったと感じる。
- ・皆さんで助け合いながら、目標達成に向けて授業後まで含めて積極的に学習に取り組めたことが良かったです。特にメーリングリストでやりとりが出来るのは、非常に便利だと思いました。メモ帳に書いてコピペする方法や単語登録は今まで活用していませんでしたが、この授業を受けてからというもの癖になり、現在ではフル活

用しています。

- ・授業内容や運営でよかったこととして、生徒間の距離が近く、お互いに助け合うことが許可されていたことが非常に良かったと思います。お互いに自身がわかることを教え合うことで、授業の内容をよりいっそう深いものにできて感じています。また、映像による指導も行われていたので、わかり易かったです。
- ・授業毎のふりかえりアンケートや、ML、解答フォームでの課題提出など、自分が今まで受けてきた授業で、こんなにも先生との距離が近いと感じた授業はありませんでした。また、授業中の発言や話し合いで、受講者の皆さんの考えも伺えて、とても勉強になりました。

4点

- ・自己紹介に始まり、生徒の興味関心が向くような進め方をしてくださっていたと思います。ふりかえりアンケートの結果を次の回からすぐに取り入れてくれたり、メーリングリストの活用を促したりと、生徒と授業を作り、授業が終わった後も役立つ情報をたくさん頂きました。
- ・先述したとおり、授業自体の内容は全て配布資料に簡潔にまとめられており、パソコンの扱いに慣れていない人がいても、何とか時間通りに全てシラバスどおりに終わられたことがよかったと思う点である。授業によっては、そのシラバスどおりに内容が進められないこともあるためこの点は本当によかった。後は授業の導入にペットの映像を見せて場を和ませたり、メールフォームを使ってクラスを結束させようとする所に、先生のこの授業に対する情熱を感じた。
- ・知識と実践を必ずセットでやる、という強力な方針がよかった。(説明を聞くだけでなく、検索ツールを自分で使う、参考図書を探してみる、現役で活躍されている小嶋氏の話を知る、など。) また、受講者からの授業への要望も、たいへん細かく、しかも迅速に取り入れてくださり、日を追うごとに更に授業がよくなっていったことがよかった。
- ・すべてを教えてくださいと、周到に準備してくださいだったこと。
- ・メーリングリストがあるおかげで、クラス全体で情報の共有が可能となり、授業内容の理解をより深めるきっかけとなりました。また、特別ゲストの小嶋さんの講義は、司書の仕事の可能性を感じられる内容で、自分自身ももっと努力

しなければならぬという気持ちにさせられ、良い刺激となりました。

- ・特別ゲストの小嶋智美さんの講義がとても興味深かった。司書という仕事を新たな角度からとらえるきっかけになった。また、プロとしての自覚・責任について自分自身にかけている事に気づくことができた。現場に出る前に気づかせてもらえたことに感謝しています。

3点

- ・短期間のなかで、これだけの内容を学べたのは、ほかのスクーリング授業と比べても評価できる。演習時間がやや短かったが、各自のペースでできたのでよかった。
- ・演習の全範囲を網羅して教えてくださったこと。新たなサイトでの情報を報告したときに、それを取り上げて、皆にもわかるように一緒に、順番に、ゆっくり進まれたこと。その成果を称賛されたこと。小嶋先生の講話を設定してくださったこと。
- ・資料を紙プリントとネット配信の両方でもらえたことはよかった。また、図書館実習や特別講師の講義は非常に刺激的で心に残った。毎日のアンケートの内容が翌日すぐに改善していただけて良かった。
- ・ビデオ「情報の達人」は図書館での情報探索についての理解を深めることができてよかった。図書館実習で、参考図書コーナーや新聞の縮刷版と雑誌の排架棚を見学する際に、参考になった。2回目の図書館実習の索引で調べてから実物の所在を確認する作業は、索引類は使い方がわかっていなかったもので、学習することができてよかった。e-govの統計は、前々から使いづらく(使いわからず)、困っていたが、データベースの抽出の仕方を、他の受講生に教わり、助けを求めて、助けを得られるというよい経験をした。
- ・特別講演の機会を設けてくれたこと。
- ・データと紙で資料を配布してもらい、非常に助かった。例題の解答は過程が詳しく、理解しやすいものだった。最前線で実際に活躍している小嶋先生の話がうかがうことができ、情報専門職という職務を具体的に知ることができた。
- ・たくさんの検索ツールを教えていただいた。図書館で二次資料を探す時間が十分あり、普段目に止めない図書を複数見る時間があつた。また、

それをグループで話し合う時間があり、さらに図書の多さを実感でき、よかった。

- ・生徒からの意見を求めたことはよかったです。次の日の授業で、少しずつは改善していただいたこともあったのでよかったです。

2点

- ・図書館実習をすることで、毎回ずっとパソコンを見る授業から離れ、気分も切り替えられたこと、参考文献などを見て検索するといったことをするなど、内容も充実していたと思う。
- ・小嶋先生のミニ講義は、現職ライブラリアンの声を聞いて刺激になりました。

Q16. 授業の内容や運営で改善してほしいことなど（★記述100字から200字程度）

5点

- ・自己の学習不足からによる反省点が多いため授業の内容や運営での改善点以前の問題によるところが大きい。あえて考えるとすれば最初のころは授業のスピードが速く説明が先に進んでしまい思うようにその場でパソコンの操作が検索結果までたどり着けないことがあった。もう少し説明しながら一緒に操作ができれば良かった。
- ・パソコンの使用に関し、環境やスキルなどシラバスに書いてほしかったです。
- ・検索項目ごとに、サイトを紹介していただき、利用してみるプロセスは、最終日の授業でのペースが個人的には一番、理解が深まりました。また、仁上先生がおっしゃっていた通り、操作面でのサポートスタッフが居てもよい授業だと感じました。授業時間外に課題が持ち越されているため、せめて、授業時間内の機械トラブルだけでも防ぐようにし、有意義な時間を過ごさせてください。
- ・毎日の課題が、私には多すぎて全部行えなかったもので、もう少し量が少ないと良かったのと、演習の難易度が高く感じたので、答えの出ない問題はなるべく減らすなどの配慮をして頂けたら有難かったです。深みにはまってしまいました。
- ・授業の内容や運営で改善してほしいこととして、6日間という限られた時間という制限はありますが、直接顔を合わせて行うディスカッションなどがもう少しあれば良いと感じました。
- ・課題の追加連絡が、授業前日の20:00過ぎにMLで知らされるというのは、危うく見逃しそ

うで怖かったです。先生の熱意を非常に感じましたが、MLでの重要な連絡事項は、最終通告時刻をあらかじめ設定するなどして頂けると有り難いと感じました。

4点

- ・Q1-2の「駆け足」は、たっぷりした内容を期間内に伝えるためには仕方なかったとは思いますが、PCスキルの差もあってか教え合っている間に先に進まってしまう場面もあったためです。後半の方ではゆっくりめにさせていただいましたが、むしろ雰囲気や内容に慣れていない前半にゆっくりめに進めていただけると、比較的苦手な方も苦手意識をあまり持たずにいれたのかな、と思いました。
- ・授業の内容というよりも運営の件について。教室に来た人たちからパソコンをスタンバイさせ、資料を配布するという点が、効率が悪かったと思われる。確かに、早く教室にきた人には効率的な方法かも知れないが、時間ぎりぎりに来る人たちにとっては、後から資料配布することで、それがタイムロスとなり、結果的に授業開始が遅れるということに繋がりがねないためである。改善方法としては、集まる時間を最初から早めにと設定しておけばいいのではないだろうか。
- ・学生に対し、夏期スクーリングの各授業のシラバスは、2度(玉川通信5月号への掲載と、スクーリング開始前のWeb掲載※授業の初日に配布されるのと同じ内容)別の内容で提供される。スクーリング開始前に案内される方は、既に受講が決まった後に見る前提で運用されていると考えられる(スクーリング手帖51p参照)ため、学生が受講を判断するための情報(PCスキルや他科目の履修状況)は、玉川通信のほうに載せてほしい。
- ・「発言で1ポイント」のプレッシャーがきつかったです。内容のハードさを痛感する中で、その言葉に動揺しました。でも、むきにならなくてよいと腹をくくったら楽になりました。
- ・初回の授業に関して、時間どおりに授業が開始できるような状態にしていただけたら、と思います。演習できる時間が減ってしまい、非常に残念でした。また、初めて紹介される検索サイトでは、先生と同時にクラス全員で検索することができるとより講義内容が理解しやすいと思います。

- ・テキストの練習問題の中にPCでの検索では答えの出ない問題が含まれていました。事前にその旨を知らせていただきたかったです。私の勉強不足ではありますが、答えの出ない問題に数十分を費やしてしまい、回答できないことに落胆しました。

3点

- ・学習のしかたや、作業のやりかたなどを押しつけないでほしい。社会人の通信学生ということで、各自それまでの人生経験のなかで培われた手法や考え方が、学部生にくらべて醸成されているはず。効率的な手法を紹介してくださるのは有りがたいが、そのやり方のみ限定するのはどうかと思います。評価方法として、発言回数や発表回数を重視するのも疑問です。とくに発表回数には限りがあり、遠慮しがちなパイの奪い合いとでも言うような、微妙な雰囲気になっていました。積極性が司書の必要な性格であることは理解しましたが、相手の気持ちを慮ったり、相手がしゃべりやすい雰囲気をつくることも同じように重要だと思います。
- ・アンケートの内容をもう少し簡潔にしてほしいです。発表、発言など完璧には覚えていません。講義内容が多すぎて急がれていることがわかったので、途中でお願いしづらかったのですが、全体的にもう少しゆっくり話していただけたら一層理解しやすかったかと思います。しかし、先生がおっしゃるように、パソコンスキルが一定以上の受講者であれば、サクサク進む気がいたします。事前にお知らせを。そして、そこに到達できない者は、どこかで、先生の求めるレベルに至れるようになるパソコン講習会を別に設けるとかできれば幸いです。
- ・スクーリング期間中パソコン環境が必要であることを玉川通信で通知していただきたい。初日の段取りが悪いので、前もって機器等の調整をしておいてほしい。授業のスピード、宿題の量が多すぎて体調管理が大変だった。
- ・夏期スクーリングのスケジュールについて講師が思うところがあることは理解できるが、それを大学側ではなく、学生側におつつけられても困惑してしまう。4日目か5日目に早く授業が終わってしまい、困惑した。ハードなスケジュールではあるが、予定通り授業は行ったほうがよいのではないかと思った。振り返りアンケートは、その日の講義で何を行ったかを受講生がま

とめるためのよい手段だと思うが、そのために用意されている時間が長いと感じた。また、評価につながるので、その点ばかりが気になり、自分の学習の振り返りになったかどうか分からない。

- ・設備の動作確認を授業前にしてほしい。コンピュータ操作をある程度できる状態での履修が望ましいという意見には賛成だが、あまり操作できない人に対しての言動が強いと感じた。
- ・授業の内容についていけないことは自分の責任である。しかし、授業を受ける資格は残してほしい。途中であきらめた受講生のことが、常に気になった。というのは、私が続けてもよいのだろうかと自問していたからである。棄権した人にも、たとえ、なにもできなくてもよいから、資料などの説明を聞くチャンスを与えてほしかった。私もふくめてであるが、生きている価値もないような気持ちになってしまうことは回避してほしい。
- ・パソコンの知識、技術に差があるため、多少席を決めるとき配慮してほしい。
- ・提出する宿題は、きちんと正解が出るもののみにしてほしいです。提出する問題数も、1問にしてほしいです。授業開始時刻前は、前日の復習ができるような自習時間にしてほしいです。生徒の能力を馬鹿にするような対応に感じました。常に強制的で、威圧的な印象を受けました。

2点

- ・大学側に言いたいことになりましたが、初日のパソコン設備の不具合によって授業の進みが遅れたことは、如何なものかと感じた。先生が途中からどこを説明しているのかわかったので良かった。
- ・何のためにサイト巡りをしているのか、途中疑問に感じました。急かされながらサイトを開き続ける事よりも、各サイトにどのような強みがあるのか、腰を据えて教えていただきたいかった。重要なサイトでは一例を実演していただいでから生徒が真似して検索してみる、など方法はあると思うので残念でした。

Q17. 図書館司書課程全体に関する感想・要望など自由に書いてください。

5点

- ・自身で学習を計画を立てて進めていくことをことを肝に命じました。今回の授業を大いに活か

して今後の学習に取り組みます。

- ・図書館実習や、対面式ロールプレイング、資料情報検索などの実体験の重要性を痛感しました。要望としてはスクーリングでの機材施設面での要望ばかりで申し訳ございません。図書館にコピー機が、もう1台あると助かるということ。演習Aは、特に図書館に近い教室が効率が良いこと。また、情報資源組織演習にて、NCR・NDC・BSHをキャリアバックで毎回持参しましたが可能であればコインロッカーがあると助かると感じました。
- ・もう少しスクーリングでも取れる科目を増やして欲しいです。通信教育だと難しいのかもしれませんが、やはり自己学習だと個人差もあり、限界もあると思うので、救いの手が欲しいです。あと、定期的に勉強会などがあると有難いと思います。
- ・司書課程の勉強をするにあたって、こなしていく教科の順序のモデルケースがあれば良いと感じました。
- ・現在、大学図書館で雑誌業務を中心に働いておりますが、点々と散らばっていた自分の知識や疑問点が、司書課程で学んでいく中で、どんどん繋がったり、解決されたり……と、学ぶ楽しさのようなものを感じております。特にスクーリングの授業においては演習ということもあり、実務と直結している部分が多く、本当に勉強になりました。ありがとうございました。

4点

- ・参考文献や関連テキストを安く購入できる方法を知りたい。司書課程の教師に詳しく質問できるような場を設けてほしい。
- ・図書館司書過程で学ぶ内容は、図書館の司書になるためだけでなく、もっと広く役にたつものです。それは学習を進めるほどに実感として強まっています。会社・学校など、一定の組織の中で、情報の流通に関わる立場の方には、もっと活用されていていいと考えます。社会で誤解された司書の能力や役割、あるいは司書像を、微力ながら変えていければ……と思いました。
- ・ものすごく難しく、かつ大事な勉強だと感じました。専門職だから、だと感じました。
- ・通信教育の利点は、学習の進め方を個人で決められる事だと思います。しかし、実際に学習を初めて感じたことは、進めていくべき順序があるということです。学習を始めたばかりの頃、

大学に「どの科目から始めたらいいか？」と聞かせたところ、「お好きなおところから……」と言われましたが、実際は概論から始めるべきだったと今になって痛感します。学習を始める前に、『学習のモデルプラン』のようなものを参考資料として配布してもらえたら非常に助かると思います。

3点

- ・手に職を、と資格を取るために受講している人もいました。しかし、現実には過酷です。臨時職員が多く、資格をもっているのに、勤務年数順に解雇を言い渡されることもあります。私のように、未熟さを痛感して学び直しにくる者もいます。はやく資格をとりたいのはやまやまですが、1年で簡単に取ろうと思わず、もっと演習を受ける機会を増やし、しっかりと学んで、じっくりと取り組む姿勢が大切であるとわかりました。
- ・基本的な(推奨)履修順などを案内してほしい。特に実習科目の前に履修しておくべき科目を教えてください。
- ・講師というよりは、大学の司書コースの担当者に対しての要望になるのかもしれないが、科目の望ましい履修の順番について、何らかの指導があってもよいのではないかと思った。私は教科書のシリーズ番号を参考に履修計画を立て、概ねその順番通りに学習していて、それで概ね問題ないと思っているが、話を聞くと「概論」科目を後回しにしている人もいるようなので、今期の情報サービス演習のような混乱が生じたのではないかと思った。
- ・たゆまぬ努力をしたならば、限りなく世界が広がるのがわかった。これまでかかわってきた図書館や司書の仕事は、ほんの一部であった。30年あまり前の資格など、ないに等しい。そのことを、もっと広く伝える必要があると思う。
- ・4月からの入学だとこの授業までに理論の単位の修得はむずかしいと思う。冬にも演習のスクーリングをいれてほしい。
- ・新しい講師には、長年スクーリングの授業を担当している講師の方と事前に情報交換をしておく必要があります。夏期スクーリング用に合わせた授業構成、宿題量などを調整する必要があります。

2点

- ・レポートの書き方、進めかたに悩んでいたの、

図書館の達人や、先生の本の読んで勉強しなおそうと思う。

Q18. その他、講師に伝えたいことがあれば、自由に書いてください。

5点

- ・提出期限が30日までと認識しており提出が大変遅くなり申し訳ございません。ご指導賜りまして誠にありがとうございました。
- ・基礎から教えていただきありがとうございます。今後の、私の成長戦略はレポートにてお送りいたしました。今回の演習で、「情報サービス論」で学んだことが深まりました。また、クラスのメンバーと繋がるのが出来たので非常に有意義でした。私はまだ「情報検索」の入り口にいるに過ぎませんが、焦らず冷静に課題を分析し、今後とも知識を活用していきたいと思えます。
- ・パソコン漬け、図書館実習有り、と非常に内容の濃い6日間でした。先生のやり方に慣れるまでは大変でしたが、慣れてくると、とても効率のよい授業の進め方だと感じました。毎日内容がたくさん詰め込まれていたため、これからも復習を積極的にして、この授業で得たことを将来実践で生かしたいです。ジョカスタ・ヌーにならないように、検索の達人と呼ばれるような司書になれるように、これから頑張りたいと思えます！ 仁上先生、本当に有難うございました。ワカメちゃんの動画、最高でした！！
- ・仁上先生から学んだ知識や、専門職の司書としてどうあるべきかということや常に頭に置いて、司書課程の続きや、実務に取り組んでいこうと思えます。本当にありがとうございました。

4点

- ・私信ですが、アンケートの提出遅れてすみませんでした。言い訳かもしれませんが、このアンケートを授業のふりかえりアンケートと勘違いして提出したと思っていたのです。そしてメールの使い方が分からず、メールフォームを見るのを忘れていました。このうっかりは改善します。本当にごめんなさい。
- ・「とにかく実体験ありき！」という授業方針は、ハードですし、運用も難しいと思えます。要望もたくさん言ってしまいましたが、この授業方針はたいへん重要なので、後の方のために是非後退しない方向でお願いします。惜しみなく6

日間教えてくださってありがとうございました。

- ・後日、facebookのフォロー機能について、メールさせていただきます。友達リクエストも申請させていただきますm(_)_m
- ・全体討論にて、パソコンの環境について話しましたが、USBが必要という段階でパソコン学習が必要であると、考えられなかったことは自己反省点となりました。図書館司書が、情報検索の能力が必要な資格であることを考えても、学ぶ場においてパソコンを所持していないのは自分の甘さだと痛感しました。6日間、二上先生のご指導の元、クラス皆で学べたことは、司書資格の学習で必要となる知識や能力以外にもたくさんの学びがありました。本当にありがとうございました。
- ・先生の授業、とっても楽しかったです。わかめちゃんもとっても可愛かったです。我が家の子供たちにわかめちゃんの話聞かせたところ、大変羨ましがり「カメを飼う！！」と言い出しました。私もちょっと飼ってもいいかな？ という気になっています。楽しい授業をどうもありがとうございました。

3点

- ・受講する者のレベルをそろえることを、講義のスタートで受講者に要求されても困ります。自分は、下の下のレベルであると思知らされたからといって、帰るわけにはいかないの、必死でかじりつきました。みんな必死でした。終了後、トイレであった受講者と、充実感と苦労をわかちあった達成感で、一緒に泣きました。まだまだですけれど、教えていただいたことを使いながら経験を積んでいくことで恩返ししていきます。ありがとうございました。
- ・非常に中身の濃い6日間でした。1か月くらい学校に通っていたような感覚です。今後の情報検索の世界が大きく広がりました。これから経験値を増やしていきたいです。たくさんの資料は本当に有り難い貴重な財産になります。熱意を持って指導していただき、本当にありがとうございました。
- ・6日間お世話になりました。
- ・大変ご迷惑をおかけしました。毎日睡眠時間を削ってパソコンに向き合いましたが、悪戦苦闘するばかりでした。しかし、理解したい、どうにかしたいという気持ちはだれにも劣らなかったと思います。そして、助けてもらった喜びも

大きいものでした。今後、この思いを支援を求めてくる利用者に還元できるよう、励みます。

- ・提出を待っていただき、ありがとうございます。授業終わってからすぐに取り掛かることができず、課題1だけで終わった気になってしまい、リストをみてびっくりしました。申し訳ありませんでした。

・おつかれさまです。

2点

- ・先生、6日間お疲れ様でした。そしてありがとうございました。
- ・今後も、ワカメさんとどうぞお健やかに過ごしてください。

Problems and Improvement of Curriculum in E-learning Course of Librarianship: Based on an Evaluation Questionnaire by Students of Information Service Exercise Class

Koji NIKAMI

Abstract

As a part-time instructor of information service exercise schooling class in e-learning course of librarianship in 2015 summer, I enforced an evaluation questionnaire by students to figure out 3 problems of curriculum, such as (1) confused study order of course classes, (2) immoderate taking, and (3) disproportion of PC skills. In order to raise the value of the librarianship, 6 improvement plans should be enforced to (1) show model case of taking classes, (2) restrict over-taking, (3) prerequisite pc skills, (4) set up a PC beginner session, (5) divide the class according to the pc skills, and (6) improve notice method for taking classes.

Keywords: librarianship, curricula, e-learning, schooling, educational development